

## 月例発信 《視察報告》

訪問地：ウズベキスタン

報告者：共同代表 熊田篤嗣

## ●訪問先

- ①雇用労働省 Erkin M.Mukhitdinov第一副大臣と会談
- ②雇用労働省管轄下の外国労働移住エージェントトップの Ravshan R.Ibragimov氏と会談
- ③日本渡航前技能実習生適応・研修センターの視察

## ●訪問日

2018年5月26日

## ●報告

- ・現時点での技能実習生の送り出し  
今回訪問した労働省が直轄しているこのエージェント  
だけしか行うことができません  
9月からは民間の送り出し機関も認める方針とのこと
- ・これまでの技能実習の実績  
食品加工や農業の分野に17名にとどまっている  
「日本渡航前技能実習生適応・研修センター」で  
日本語を学んでいるのは約60名  
※ベトナムやフィリピン等に比べてかなり少ない現状
- ・介護分野での人材送り出し  
日本側の提示する“技能実習生の場合でもN3が必要”  
という条件のハードルが高すぎるため、すぐには無理  
⇒ 今後の日本側の条件緩和との兼ね合い  
早いタイミングで相当数の送り出しの期待は困難

## ●総括

現状での送り出しは厳しい現状であるが、3,200万人近い人口を抱え平均年齢も30代前半と若く、穏やかな国民性で日本へ好感を持っている方が多いこともあり、潜在的に日本に働きに来ることを希望する方は多いのではないかと感じました。

一方で、ウズベキスタン国内の経済的な側面では、車やスマホに象徴されるように韓国の存在感が日本よりも圧倒的に高く（ウズベキスタン国内で見ると韓国製のものが多い）、韓国に後れをとっていることは認識しておかなければならない。

なお、宗教的にはイスラム教スンニ派が主流で、首都のタシケント周辺での平均月収は日本円にして2万円～5万円程度。

副大臣とは今後の協力関係強化を約束して帰国してまいりました。

